

美々川環境学習「駒里中学校～2015 美々川の自然をまもり隊～」

室蘭建設管理部

<取組の概要・特色>

室蘭建設管理部では、美々川・ウトナイ湖の自然と自然再生の取組を広く知ってもらう取組の一環として、平成 18 年度より地元小中学校の皆さんと一緒に美々川環境学習を実施しています。

■平成 27 年度の実践例

平成 27 年度は 7 月 2 日に『駒里中学校～2015 美々川の自然をまもり隊～』を開催し、生徒 9 名と先生 5 名が参加しました。

駒里中学校での総合的な学習『調査研究』部門を通じて、生徒の皆さんに美々川源流部とウトナイ湖の自然環境の変遷や自然再生の取り組みについて理解を深めてもらうために、室内学習と屋外の体験学習を組み合わせたプログラムを企画しました。

■実施内容

①美々川・ウトナイ湖の自然環境と自然再生の取組を学ぶ

美々川は中学校のある地区を通りウトナイ湖に流れ込む川であり、身近な自然環境の変化（湿地の樹林化など）と、室蘭建設管理部が取り組んでいる自然再生（湿地再生など）について学びました。

②美々川源流部を見て、水質の変化を学ぶ

美々川の源流部を散策し、湧水などの自然観察と採水をしました。湧水、水質、季節によって変わる源流部の美しさなどの説明を受けながら、異なるポイントで採水したところ、アンモニア態窒素の値などが大きく異なる結果となり、水質の違いや継続調査の必要性を学びました。

③ウトナイ湖湖岸の植生の移り変わりとその要因を学ぶ

ウトナイ湖サンクチュアリ・ネイチャーセンターに移動し、湖岸の植生の移り変わり（湿地の草原の減少とハンノキの増加）とその要因（水位の低下）について学びました。

④ハンノキと環境の関係を探る

増加しているハンノキについて屋内外で調査、測定をしました。屋外では木の高さ、幹周り、生えている場所の様子を調べ、屋内では葉の面積、一枚当たりの葉の数を調べて、木についている葉のおおよその総面積を推定したほか、樹齢も調べました。最後に結果を整理・比較すると、樹齢が同じような木でも湖から離れている場所の方が大きく成長していることが分かりました。



（葉の総面積を推定）

⑤湿地環境に棲む鳥について学ぶ

ウトナイ湖に飛来する鳥について、日本野鳥の会のチーフレンジャーからクイズ形式で楽しく学びました。最後に、湿地は開発されやすいことについて説明を受け、野鳥の生息地を守るためにはどうしたらよいか、皆さんも一緒に考えて欲しいと投げかけがありました。

<推奨理由>

美々川の水質やウトナイ湖の植生について室内でまず知識として学び、屋外で実際に観察・調査を実施するなど、座学と体験学習を効果的に組み合わせて実施しています。

算数で学習していたことの活用やキャリア教育の側面もあるなど、充実した内容に、先生からも評価の高いプログラム内容となっています。